

【第 28 回】

いよいよ新学期をむかえます。新型コロナウイルス感染症は現在のところ落ち着きをみせており以前の日常に戻りつつあります。国もマスク着用は自己判断としました。でも気の緩みは禁物。注意点について今回は書きたいと思います。

最近の国の考え方を示します。文部科学省は、「基本的対処方針等においては、令和 5 年 4 月 1 日以降の新学期におけるマスクの着用の考え方について、学校における学校教育活動の実施に当たってはマスクの着用を求めないことを基本とすることとし、大学等についても適切に対応すること」の方針を出しました。でも、内容は具体性に欠けており、行動するうえで判断指針とはなりえません。以下に具体例を書きました。参考にして下さい。

【今後のマスク着用の基本的な考え方】

以下のような考えがある時はマスク着用を考慮しましょう。

1) 感染症を積極的に予防したい時

- ・自分もしくは同居家族に重症化リスクがある/重要なイベントを控えている。
- ・医療機関・介護施設・社会福祉施設などで実習がある。
- ・ワクチン接種をしていない。

2) 自身が感染症に罹患している恐れがある場合(感染拡大の予防)

- ・咳・くしゃみなど飛沫を飛ばす症状がある。
- ・発熱や倦怠感などのかぜ症状がある。

3) 同居家族(またはそれに相当する人)に感染者がいる。

4) 感染症予防以外の理由

- ・花粉症、食品衛生、心理的要因、ファッション

4 月からは同じ場所にマスクを着用している者としていない者が混在することになります。どちらが正しいか判断はできません。お互いの考えを尊重して共存することが、ウィズコロナ、ポストコロナの時代には求められることです。今後はさらに様々な制限緩和が進むでしょう。混乱が生じないよう思いやりを持って行動することが大切です。(文責:佐藤 浩樹)